



第九拾百号

「未来の神だデザインコンテスト」入賞作品より製品化された「いのり」301・501

三年間を振り返って

庁長 中山 高嶺



発行
さいたま市大宮区高鼻町1-407
埼玉県神社庁
電話048(643)3542番
編集室
印刷
アサヒ印刷(株)

平成十九年度より庁長をお引き受けいたしました。早くも三年を迎えます。この間に私に与えられた大きな課題は、式年遷宮に向けての募財活動の推進及び目標達成にありました。これを主眼に県下一丸となって取り組んでいただき、茲に着実な成果を見るに至ったことは、感謝に堪えません。また、重要な取り組みである神宮大麻増頒布運動では、県内神職のご努力並びに、教化委員会の啓蒙活動により、増体に転ずることができました。新たに実施をした「未来の神棚デザインコンテスト」では、全国に先駆けての取り組みで反響も大きく、今後更なる成果が得られることを願うものがあります。

畏くも天皇陛下におかせられました。御即位二十年の佳節をお迎えになられました事は、誠に慶賀の極みでございます。本県におきましても、昨年九月二十六日埼玉会館大ホールにおいて、天皇陛下御即位二十年奉祝委員会主催「天皇陛下御即位二十年埼玉県奉祝の集い」が、関係各位のご協力を賜り、盛大に開催されたことは誠に意義深い事でありました。

更に、この奉祝の年に、「高円宮憲仁親王殿下御ゆかりの品々で綴る 宮さまの思い出展」が、熊谷市八木橋百貨店カトリアホールを会場に開催しました。オープニングセレブションでは、高円宮妃久子殿下にもご台臨賜り、盛会裡に終了できました。省みて、今期、執行部役員としてどれだけ皆様の期待に応えられたかは、甚だ心許ない限りではありますが、これまでの御厚志に深謝申し上げます。

現代における神社とは何か

茂木貞純

「現代における神社とは何か？」という問いかけは、過去の神社と現代の神社との間にある種の断絶を予想させる。あるいは、現代の神社は、過去になかった役割を担う様になった、と解することもできる。その両面からこの課題を考えることにしたい。

神社の創建は、それぞれ異なり、千年以上の歴史を有する古社もあれば、御鎮座以来百年という比較的新しい神社もある。式内社といえ、古社の代表格であり、延長五年（九二七）に選上された『延喜式』の神名帳に載せられた神社である。すでに千年以上前に朝廷が認知し、幣帛を奉つて五穀豊穡と国家安泰を祈った神社である。その数は、二八六一社である。

古社の創建の原点を確認することは難しい。毎年繰り返される例祭にその精神が伝えられていることが多いが、すでに分からなくなつて久しく、ただ古くからあるというだけの存在になつてしまった場合もある。数は少ないが地震や河川の流れが変化し消滅した神社もある。

一方、千年以上経過しても地域の人々に創建の心が生き生きと共有され、境内施設なども明らかに神寂びて、無言のうちに神々の御

稜威を感じさせる神社もある。

創建の心は、不明になつてしまつたが、その後の努力により、あるいは人口過密地となり、新たな氏子から支持を得て信仰されて、栄えている神社も多数ある。

○

北海道の神社は、大半が百年の歴史しかない。例えば洞爺湖に近い伊達市の伊達神社は、明治二年に伊達邦成公が、この地方の支配を命ぜられ、旧藩士らを率いてこの地に移住し、開拓をはじめ、藩士の故郷である宮城県亶理郡の式内社鹿島天足和氣神社の御分霊を勧請したのが、創建のはじめである。明治九年に伊達邦成公自ら祭主となり、田村顕允が副祭主となり、遷座祭を行った。現在、御祭神には、鹿島の神と共に伊達邦成命と田村顕允命が合わせ祭られている。おそらく開拓事業に尽力された功績ゆえに祭られたのだろう。氏子世帯は、一万軒を超えていて、例祭は九月十五日で、騎馬武者行列が行われ、仙台神楽が奉納される（『北海道神社誌』）。

開拓の守護神として創建されたことがよく分かる。当初は五百戸余の入植者であつたようだが、開拓が順調に進み、子孫繁栄すると

共に新たな移住者を向かえ発展を重ねたと推測できる。神々の恵をえて、人々が豊かで平安な社会を築こうと、努力してきた結果が、今日の姿である。そして、例祭に行われる騎馬武者行列や仙台神楽は、先祖の原点を毎年思い出させてくれる。おそらく、北海道の神社の多くは同じような歴史を持っているのであろう。

○

常陸国風土記に面白い神社の創建伝承が記録されている。第二十六代継体天皇の御世のことである。麻多智という者が、葦原を開墾して水田にしようと工事を始めると、何処からともなく角のある蛇がたくさんやつてきて、邪魔をした。夜刀の神といい、この神をひとたび見ると家が滅び子孫が絶えると、恐れられていた。

麻多智は怒つて鎧をまとい、武器を取つて、夜刀の神を打ち殺し追い払つた。山口にまで到つて、「ここから奥は、神々の土地としましよう。ここから下は私たちの水田とします。その代わりに、私は神主となつて、永久に祭祀を続けましょう。どうか、恨み、祟らないでください。」といつた。その後、神社を建てて、麻多智の子孫が代々祭祀を続けて現在まで絶えていない、と伝えている。

古風土記は、和銅六年（七一三）に朝廷の命により編纂され始めたので、この話は奈良時代の現状を伝えているのである。夜刀神社

の創建はそれより二百年ほど遡る。そして、今も霞ヶ浦を望む茨城県玉造町新田に夜刀神社は鎮座している。

二つの例を示したが、神社の歴史は概ねこのような場合が多いのだろう。私たちの先祖はこの日本列島の地形条件の許す中で、河川流域の原野や湿地帯を開拓し、田畑を造り農業を主産業に暮らしてきた。そして、現在全国に約八万の神社が鎮座していることが、何

よりも雄弁に語っているように、何処においても神々を祭り、その恵を得て、豊かで平安な社会を築くべく努力してきたのだ。そして、何より正しく生きようと心がけ、礼儀を重んじ倫理性の高い国民性を形成し、平安で比較的安定した国家を築いてきた。その根底に神々と共にいきる道、神道が存在した。

ところが先の戦争に敗れた結果、「国家神道」は軍国主義と超国家主義の温床として断罪され、神社はかつての名誉ある地位を追われ、徹底した政教分離政策の中で、日本人の遺伝子の中に伝えられている神社像が徐々に破壊されている。GHQは、神道指令により「国家神道」を根絶すべく国家と神社神道の分離を命じ、さらに昭和天皇の詔書で「日本国民を以て他の民族に優越せる民族にして、延て世界を支配すべき運命を有す」(「新日本建設の詔書」)事を否定せしめた。

日本は、世界を支配し世界の盟主になるべ

く「侵略戦争」を起こしたのだろうか。そんなことを謀議した政治家・軍人が存在したのか。もし仮にいたとしても神道にどんな関係があるのか。こうした占領政策が誤解から生じていることは明らかだ。しかし、どうして誤解が生じたのか、日米双方から有力なる見解は、まだ示されていない。その兆しはあるので、大いに期待したい。

日本の歴史の中で今ほど神社にとって厳しい時代はないのだろうか。ただでさえ古くから伝わってきた、意味がわからなくなってしまう、そのうえ政教分離で、為政者がその立場で、祈りを捧げる事が禁止されている。正常な神社信仰が破壊され続けていて、いつの間にか、神社とはそんなものか、という評価が定着しかねない。

ただ、神社には、祈りの歴史がはつきりと刻まれている。様々な奉納物、絵馬、古文書、境内の記念碑、毎年繰り返される祭り、そして何より今まで維持されてきた社殿・鎮守の森に。創建の原点こそ不明になってしまっても、究明する手段はいくつも残っている。

それらを便りに「廃れたるを興す」気概が最も大切だ。盛衰は世の常であり、ひるむ必要はない。祭りが厳修され、その恩頼を得て、人々が豊かに平安に暮らせる。そうした社会を実現する。そうすれば、制度も再構築できるのではないか。

急激な社会変動の中で、日本の社会は変転を続けている。第一次産業の就労者はわずかなり、高齢者が多く先細りは避けられない。神社の存在基盤が揺らいでいる。憲法と諸制度の変革で「家」が解体され、家族意識も大きく変化してしまった。伝統文化がどんどん廃れていく中で、伝統を体現している神社の役割は重要性を増している。

第六十二回神宮式年遷宮に大きな関心が寄せられるのもその証左である。出雲大社の巨大な心柱の発見は、県立の古代出雲歴史博物館の常設展示に反映されている。これから、伝統を守る為に神社は、ある種象徴的な役割をになうことが多くなるのであろう。

神社は、私たちの生活の原点であり、日本神話の中にそれが伝えられている。日本神話は、神道指令で公教育から一切排除されたが、すでに復活している。完全復活というには遠いが、堰はきれたのだろう。神話の時代から存在する神社に、現代の新たな役割が付与された。神道人は積極的にこの役割を担うことが求められている。

(古宮神社宮司・國學院大學神道文化学部教授)

座談会「未来の神だな」と今後の神棚奉斎

出席者 ※敬称略順不同

細田知秀 (鳩ヶ谷市)

細田京子 (鳩ヶ谷市)

原 泰明 (神社実務部副部長・八幡神社禰宜)

《司会》

朝日則安 (庁報編集長・三峯神社禰宜)

《庁報編集室》

竹本佳徳 (庁報室長・神社庁副庁長・川口神社宮司)

網野直久 (編集委員・秩父神社禰宜)

中山真樹 (編集委員・金鑽神社禰宜)

嶋田土支彦 (編集委員・氷川神社禰宜)

小林 充 (編集委員・香取神社禰宜)

高橋寛司 (編集委員・神社庁学芸員)

司会 本日は、お忙しい中お集まりいただき

ありがとうございます。平成十九年二月

十八日に、本編集室が企画致しました「氏

子から見た神棚奉斎」というテーマで座談

会を開催・庁報一七九号に掲載したことが

きっかけとなり、その後、教化委員会神社

実務部によって「未来の神だな」デザイン

コンテストが実施されました。そのコンテ

ストの優秀デザインを元に製作された

「いのり」301が完成し、本日お持ちい

ただきました。新しい神棚が完成したこと

を踏まえて今一度座談会を開催することに
致しました。



朝日編集長

本日はあいにく神社実務部の馬場裕彦部
長が欠席ですが、原泰明副部長に出席いた
だいております。また、鳩ヶ谷氷川神社の
氏子で、前回の座談会にも出席いただき、
更にはコンテストの審査員をお願いしまし
た細田知秀・京子ご夫妻にもご参加いた
きました。それでは最初に原副部長より、

「未来の神だな」デザインコンテストから
今回の神棚「いのり」301の完成までの
経緯について簡単にご説明いただきます。

原 先ず神棚のデザインコンテストなんです

が、新しい神棚が無いかな、洋風の居間に

あった神棚が無いのかという所からスター

トしました。また、神棚の奉斎についての

座談会記事の一言がきっかけで、是非一般

の人がどういった神棚を欲しがっているの

か聞いてみようということで、コンテスト
という形で呼び掛けてみることにしまし
た。



原副部長

コンテストは、平成二十年五月一日か
ら六月三十日まで、『公募ガイド』という
全国紙を使って一般公募いたしました。

二八一通の大勢の方に応募いただきました。
また、北海道から沖縄まで、年齢層も
六歳から八十三歳まで幅広い方々から作品
を送っていただきました。職種もプロのデ
ザイナーの方から、主婦・学生まで、多く
の方が、色々な想いを神棚に抱いているこ
とが分かりました。当初はデザインを一次

審査で決め、二次審査では作成した神棚を
評価することを提案したのですが、そうす
ると本当のプロの方でない試作品までは
不可能ではとの指摘もあり、デザイン画の
みの募集としました。これも『公募ガイド』

の方からの指摘で、新しいものを作り出す
の必要だが、一般の方に、神棚について
考えていただくきっかけを作ることの方が
良いのでは、との意見からでした。八月に

審査の結果、大賞一作品、優秀賞一作品(神

本社庁統理賞)、企業賞(株湊賞)一作品の入賞三作品、佳作五作品を選びました。次いで試作を(株湊に依頼したのが昨年五月でした。大賞、優秀賞、企業賞の三作品を製品化しようと動き始めて、今回、先ず優秀賞の作品が完成しました。今後、大賞作品が来年三月頃までには完成の予定です。優秀作品を作成していく中で、多少のデザイン変更をしながら完成いたしました。

司会 それでは細田さん、審査に当たられた率直な感想はいかがでしたでしょうか。

細田知秀 今のお話しにありましたように、多種多様で、素晴らしい皆さんのデザインにビックリしました。



細田夫妻

細田京子 皆さんがイメージされている神様というものが、どのようなものなのか出揃ったのがあの審査会場でした。ある方にとっては、今までのお宮の形をイメージし

たものもあれば、今回の未来の神棚コンテンツのタイトルにふさわしく、これまでの概念に捉われない伸びやかな作品が多かったと思います。雲をイメージする方、光を使った私からすると強いようなイメージの方もいらつしゃる。あとは何かをお供えしたいという心がいつもあり、お供えをする場所までお考えになる方や、神様というものは中々外には出てこない。内に秘めたイメージをお持ちの方は、前に扉を付けられる方もいらつしゃいました。応募者自身の祈りの対象とするイメージが多種多様にありました。こうしたことを受け入れる神社庁の取り組みは、提案した側としてはとても幸せなことであつたと思つています。

司会 ありがとうございます。それでは、デザイン画から実際に製品化をする上で、問題点などは、どうだったのでしょうか。

原 業者であります(株湊から、デザイン画を形していく段階で、図面が必要であると言われました。大賞作品を作ってみると、神の模様を入れたガラス扉が観音開きになっているのですが、お供えをする棚が原画ではそのすぐ下に描かれていて、出し入れできるようになつていますが、現実的には不可能であると判断されました。試行錯誤の結果、図面を起すのに大分時間がかかりました。

司会 ようやく製品も完成し、今後は各神社で頒布するわけですが、出席している編集

委員のお社でも頒布するにあたり、どのようにお考えか伺うことに致します。嶋田さんいかがでしょうか。

嶋田 予定としては頒布したいと思つていますが、何種類か揃つてからにしたいと考えています。



嶋田編集委員

従来の宮形を祀るという意識が強いと思うので、何種類か並べて、自分が祀りたい形が選べるような状態になつてからと思つております。

司会 嶋田さんのお社では出揃つてから、皆さんが選べる形で頒布をするということですが、すぐ置いて頒布する方法はとらないということですね。

嶋田 そうです。予定は今のところ無いですが、ご家庭によつてインテリアだとか、意識も違うので、何種類か出来上がった時点で、氏子や参拝者に対して頒布を始めたと思つております。

司会 小林さんの香取神社では。

小林 香取神社でも、この新しい神棚を頒布します。最近、神棚のお焚き上げが増えてきまして、引越しをされると必ず不要と

され、置く場所が無いということで、お焚き上げに持ってこられる方が多いです。新しく住まわれる所が洋式の家であったり、マンションに引っ越しされると、宮形の神棚では置く場所が無いということで持ってこられる方がいます。その時に、何かそうした家に合った良いものは無いかと尋ねられるので、最近は簡易神棚などの小さい壁掛け型の神棚を頒布しています。



小林編集委員

司会 今回作られた神棚でしたら、私としては違和感が無いので、神棚を新しくお祀りしたい人に勧めていきたいと思えます。

小林 はい。お正月から、人が沢山来られますので。

司会 中山さんの所も置かれる予定ですね。

中山 この前決まりました。県北にこの神棚を置く神社が無いということで頒布することになりました。まだ、どのように頒布するかは、数日前に決まったことなので具体的にありません。ただ、当社でも神棚が欲しいという方が、年間五〜六名は来られます。そうした人達は従来の宮型の神棚

のイメージを持った方がみえると思います。私は祀る心が大事だと思えますので、ちよつとした棚でも良いと話しています。この形の神棚がありますと、一軒家でなくても、アパートやマンションなどに住んでいる沢山の人の、話ができるように思います。今の若い人ですと、可愛いなどの理由で興味を持つ人がいると思います。



中山編集委員

そうした人達に、こうした形の神棚でも良いのだと分かって頂き、段々と受けてくれる人も増えて来るのではないかと思います。

司会 今の神職としての意見に対して細田さんはどう感じますか。

細田知秀 揃っているのが有難いに越したことはないのですが、頒布していただけることとそのものが有難いというか、神社庁お墨付きといえますか。神棚はどこでも買えますよね。仏具屋ですか、ホームセンターでも。やはり神社で売っていただけだと、断然、我々としては求めたいというのが、素直な意見です。中々神社で頒布しているという実状が無いように思います。種類が

多くあるということに越したことは無いのですが、まずは販売していただけるのが有難いと思っています。神社庁でネット通販とかやるのはいかがですか。

高橋 神社庁では直接やらないのですが。

細田知秀 やってはいけないということですか。

高橋 いけないということはないのですが。

司会 神社庁のホームページには載せることは致しますよね。

高橋 神社庁としては、扱っていただけるお宮を紹介するということを行います。ホームページには「いのり」301を紹介したパンフレットを載せ、最後に取り扱う神社の名前が載ります。その扱っている神社でお受けいただく形になります。

司会 このようなご意見が出る中、当庁報の室長でもあり、神社庁の副庁長でもあります竹本室長に、こうした初めての取り組みに対して、神社本庁や各県神社庁の反響や今後の課題について、副庁長の立場でお聞きしたいと思います。

竹本 先程、中山さんも言われましたし、前回の座談会でも感じたのですが、神社関係の方達よりもむしろ、大工さんとか一般の氏子さんの方々が、神棚に対して保守的な考えの方が多い気がしました。こういうものでなければならぬとか、あるいは神社で斡旋してもらえないものでなければいけないと思っておられる。だけど私達は

必ずしもそうではなくて、神様をお祀りするということが大切であると考えている。神棚は、本来、もので無くても場所であった。日本建築ですと棚があつて、そこに神を祀る場所として始まったのだと思います。今は神棚という一つの固定した観念になつてしまつていて、神棚が無いから祀れないという考え方を持ってしまう人がいるよなので、むしろ、今の時代の生活にあつた新しい形の神棚を、前々から私もあつたらしいなと思つていました。また、全国の神社庁の人達も、潜在的な希望として持っていたようなので、今回埼玉県で実施したコンテストに関して、全国的に反響を受けてどうなつたのか、実際に入選した神棚がどうなつたとの問い合わせがあつたということも聞いています。それが漸く一つ形としてできたことで、他県の神社庁の庁長からも、こうしたものを待っていたという声も聞こえています。ただまだ問い合わせがあつた神社庁には、現物として届いていないので、どのような反響を受けられるかは判らないが、その第一回がこの座談会と



竹本庁報室長

思っています。

先程、細田さんから高評なので、神社庁としては良かったと思つています。ここで止まつてしまつてはいけないのではないですか。それは、先程よりお話があるように、もう少し色々な形もあるだろうし、お札を祀ることからすれば、神棚ということばかりではなく、生活様式ですとか、家族というものに対しての考え方とかを含めて考えなければならぬと思つています。これが一つのきっかけとして、新しい方向を開く一歩になれば良いと思つし、なるのではないかと、そんな期待を持っています。

司会

原 原副部長から、経緯についての資料を頂き、その中に「神社界の示す新しい神棚として相応しいものか」との、堀場美佐審査副委員長からの一言が、心に残つたとありますが、それはどういうことでしょうか。

原

審査を行っている会場で、堀場審査副委員長が多種多様なデザイン画が上がつてきた中でどれを大賞に選ぶかという時に、その一言をおっしゃられたのがひどく印象に残りました。我々が好みとして見ている、または初めての試みなので、最初は新しい神棚であればよいと思つていました。実際ここで決めることになつた段階で、「神社界が示すものとして相応しいものかどうか、とても重大なことだ」とおっしゃつて、非常に重たいものなのだなということを変更して再認識しました。

司会

相応しいか相応しく無いかという過去の概念に囚われてしまう。室長も言われた、棚を作つて上に祀らねばならないという概念に囚われてしまう方が多いのが現状だと思つています。今回製作された「いのり」は、棚を作らずとも、床の間や部屋、またはサイドボードの上など、どこでも祀り易い形ということですね。その時、審査に携わつた細田さんはいかがでしたでしょうか。

細田京子

先程、夫が言ったように、神社庁さんのお墨付きというものがあれば、有難いと話していたのが本心です。各神社で頒布いただけるといってお話を伺い、私達の氏神である鳩ヶ谷氷川神社では、何種類か揃つてからといわれていましたが、選べるというのが豊かさであつて、唯一無二でなく、これでもこの形でも良いというお考えをここでお示しいただいたことによつて、敷居が高かつた神棚への考え方が、徐々に低くなり捉われていた概念も徐々に解けていくのではないかと思います。また、お正月から出すという香取神社さんのようにスプード感も必要では無いでしょうか。お正月の出入がある中、宮型の神棚でなくてはならないというのではなく新しい神棚を提案していただき、先程言われた祀る心が大事だということをお示しいただくことが、私達には、そういうものなのだと理解できます。普段神様にお供えをする時でも、お茶じゃ駄目です、お酒でなければ、お水で

なければということよりも、お供えしてお祀りする心が大切なのだということ伝えていただく。生活様式とかを伝えていく、それが本来なんだとお話を伺って、まさにその通りだなと感じました。

司会 審査の時、かなりの作品数がありました。細田さんが票を入れたものと、賞に入ったものでは。

細田京子 全部一緒です。

司会 八作品すべてですか。

細田京子 はい。

司会 その他にもこれも良いなというものがありましたか。

細田京子 そうですね。でも限られた点数を振り分ける中では、実に合致しました。お引越など、お部屋の雰囲気になかなか困っていた所だったので、この形のものがあれば有難いし、イメージに随分マッチします。みなさん見たことが無い、思いつかないような形を提案して頂いている。実際に形にされる時には大変なご苦労があったとお察ししますけれども、このような形になってうれしく思っています。

司会 ご苦労があって、コンテストを実施されたと思いますが、教化委員の任期でどのような計画で行われたのですか。

原 そうですね。最初は、三年任期なので三回やったら良いという意見でした。コンテストを実施して、デザイン画を業者に渡せばすぐ品物が出てくるだろうという認識

だったものでそうした考え方を持ちました。しかし、作ってみると時間が掛かることが判りました。そうすると、一年目に計画し、二年目にコンテストを実施、三年目に作るという状況でした。三年に一回改めてコンテストを実施すれば、一般の人の神棚に対しての意識が判るのではないかと思いました。応募された作品を見ますと、自分の家に欲しい神棚、置きたいという意識で多くの方がデザインされてこられた。神棚はどんなものだろう、どんなふうにお祀りしたらいいのだろうという所まで考えて応募している。応募をしている人が増えれば増えるほど、神棚に対しての認識というものが増すのではないかと今回のコンテストで思いました。

司会 やはり三年という段階を踏んで作っていくことが大事なんですね。

原 やはり形にするまでに試作品を作って、手直しをして、頒布をするには、それなりストーリーを考えて出していかなければならぬ。この神棚の題名も「いのり」301にしたのですが、シリーズの形でこの後大賞作品を出していく。応募された方はそれぞれの作品に名前を付けられています。それを出す側として、それぞれの題名で行くよりも、統一した名前を出した方が良いのではということで、「いのり」シリーズという形になりました。3というシリーズが置き型、5というのが壁掛け型、7が

両方の形を持つ神棚としました。「いのり」という題名を付けたのは、ホームページにも紹介いたしますが「流行りすたりが繰り返され、日々変化していく我々の生活の中で、変わらないものとは一体何だろうか。それは『祈る心』ではないだろうか。」ということからです。

司会 優秀賞作品は今回このような形になりましたが、残りの作品についてはいかがでしょうか。

原 実際にはデザイン画から無理というものもあります。すべてを作るということは不可能と想っています。我々も三月が任期です。今期は大賞作品を出すまでと考えています。企業賞も作ってみました。形にしづらく難しいので、残り六作品については考えていません。

司会 作ることにするとコストの面が気になりますか。

原 私も物造りを初めてやったので、試行錯誤でした。今、目の前にあるこの神棚の色を、白では無く赤にしたら、との意見を頂きましたが、それぞれ金額がかかってきます。

司会 コスト面が大変ですか。

原 はい。試作には、やはりコストが掛かります。この神棚の前の試作品で、実はアンケートを取らせていただきました。そうしますと年齢が四十代を超えてくると受け入れられない。これが二十代、三十代にな

ると良いんじゃないということになりま
す。二十代の男性に「家に神棚があります
か」と聞きますと、100%無かったん
です。その人達にこれ良いんじゃないかと言
ってくれた人が、実に六割が気に入って
くれました。年配の人にとっては、親が
神まつりをしていて育ってきた。しか
し若年層には解らないことになってい
る。そこで、そうした方にお祀りを始め
るきっかけになるのには良いのかなと思
いました。あとは金額の問題になると思
います。最初に作ったものと、最低ロッ
トが千円で、一万五千円であると言わ
れた所もありました。

司会 実際、購入する場合には、幾ら
ぐらいならば。

細田京子 五万円ぐらいかな。

細田知秀 日常の生活をしている時
には二、三万円のものが出ないが、新
築の家を購入する時に、じゃあこの機
会に神棚を備えましょうかという気持
ちになった時には、家にマツチした物
であれば、五万円でも満足ではないと思
います。

細田京子 ホームセンターでも売
っています。その位じゃないですか。そ
れも自分の好みでは無い形のものであ
ったりとかを考えると。こういうもの
でも良いんですよという提案を見るこ
とにより、初めて判る訳です。鳩ヶ谷
氷川神社でも展示という形で提案して
いただいているので、こうした祀

り方もあるんだということを目で見て
理解できます。地鎮祭の時などにも情
報をいただけると、金額はあとからつ
いてくると思っています。金額に限ら
ず機会を沢山設けていただくことによ
って、千というロットも苦にはならな
くなるのではと思います。二十代で六
割の方が好感度をいただいていること
は、二十代ではこの形の神棚、年を
重ねて宮型のものが落ち着くという
ことであれば、替えることができるん
だという提案をされることの方が、意
義があると思います。

司会 若い方が神棚を持たない。この
間このような話を聞きました。お墓は
一つ持てば家族全員が入ることができ
ます。でも家を出て、マンションとか
一戸建に住んだ場合、自分が悩みがあ
ってお札を受けても祀る所が無い。実
家の神棚に祀るのは遠いし、常に拜
むことができません。神社庁ですら
自分のだけの神棚は、そうしたニーズ
に配慮することにもなります。お墓は
一家に一つ、神棚は家を構える必要
はない。今、細田さんの話で改めて感
じました。ところで神棚を祀る際に、
マンションなどでは、上を人が歩いて
しまうので祀る所が無いなどと言わ
れます。私はその時、マンションの空
間そのものがあなたの空間であって、
祀りたい所に神様をお祀りしてくだ
さいと話します。心的障害と申しま
す。

か、総二階の家やマンションにお住
まいの方に、どのように話されています
か。

原 一般的に神棚のお祀りする形
として、和室がある部屋にと話しま
す。最近では、和室の部屋を作らな
い傾向にあります。足を踏まない場所
が無いから神棚を祀れないとする
のではなく、一番大事な所は、お祀
りすることなんです。スタートであ
ると思います。みんなが集まる場所
ですとか、そういう所を勧めます。

司会 嶋田さんの所も住宅地ですが、
そうした相談が多いのではないでしょ
うか。

嶋田 そうですね。「マンションに
引っ越すことになり、神棚を祀りたい
が、上に住人がいるので神棚を祀る
のはいけないのではないか」という
親念をお持ちの方がおられます。そ
うした場合には、先程お話にあつた
「あなたのお住いの空間があなた
の家であり、お祀りしてお守りいた
だくのがよろしいのでは」と話をし
ます。神棚は踏んじやいけないもの
だという意識が最初にきます。「雲
という字を書いて天井に貼りました
よ」とお伝えすると、中には「そこ
までして神様をお祀りしなくても、
止めた方が良いのかしらね」と相
談されます。皆様をお守りいただき
中で、ストレスとか気にならな
いことを抱えながら生活するのは
好ましくない。お札をお祀りして清
々しい日々をお送りいただきたいと
話をします。

司会 今回の神棚デザインコンテ
ストの審査

委員に参加され、細田さんにとつての理想の神棚とは、また、未来に向けてのお考えなどはどうでしょうか。

細田知秀 私は、形がこうであるというのが理想ではなくて、こうしたものでも良いですよ。気持ちの問題といましようか、マンションで上の人が踏んでしまうのがネットと申しましようか。そうしたことが私達にとつては問題なんです。神様に対して恐れ多いというのが歪んでしまつて、「怖いから止めます」という不安を拭ってくれるようなご提案をいただけるのが、理想の神棚の形であると思います。それが今回のコンテストの結果で出来上がった神棚だと思いますし、お褒めいただいたものだと思います。先程、雲の字を書くとの話がありました。例えば、雲のシールを配つてくれると、神社の方にこの雲のシールを貰ったのだから大丈夫なんだな、そういう安心とか可能性とかを広げていただけるのが、私にとつての理想の神棚になります。

細田京子 私も、夫の話の通りだと思ひます。いつも世界を広く見ていたいと思ひますが、固定概念で凝り固まつてしまつて居る所があります。それを広げていただく、多様性というものを認め頂く姿勢が大事であり、それを先にお示しいただくことで、人に押しつけがちな、これではなければならぬ固定概念を、そうではないんだと振り返る。また感謝の気持ちを持つて居る。そ

ういう生活様式や姿勢を学ばせていただければと思ひます。形式ではなく姿勢ですというこを教えていただくことが一番理想だと思ひて居ます。

細田知秀 漠然として居るんですね。

細田京子 どの形でも良いんですね。

細田知秀 漠然として居るんですが、こうした神棚を販売していただくことが一つのきっかけであり、理想に近づくと思ひます。

司会 はい。細田さんには大変貴重な意見を頂戴しました。今のご意見で原副部長さんほどのように受けとめられましたか。

原 301をご購入いただきました方に、一枚の紙を入れることにしました。「ご購入いただきましたましてありがとうございます。301はシンプルな神棚です。次のような祀り方があります。家族で相談しながら、楽しいまつりかたをやつてみてはいかがでしょうか」ということが書いてあります。御利益的に神棚を祀るといふより、普段守つていただいている神様に感謝をする気持ちを表すということが良いのではないかと、提案いたしました。

司会 先程、アバウトな感じとのお話がありましたが、宮形の形をして居ると神様が居るのだと意識する。この形ですとアバウトでも違和感が無いのかなと感じます。

細田京子 乱暴な言い方じゃないですが、手を合わせるような場所があれば、どこでも良いと思ひて居ます。私達の家の神棚

は、三階建ての一階に置いてあります。嘗て実家の時には大きな立派な神棚と、それ以外に台所などは板一枚で祀つてある所もあれば、お札の後ろにのりを付けてペタンと貼る所もありました。そこを通ると見守つて居るのだと小さい頃から思つて居ましたし、そういう機会が沢山あったことが、私には有り難かつたです。この「いのり」のサイズであれば、マンションだと下駄箱の上に飾れる。そうすると私は行き帰りの安全を見守つて居るといふ安心を感じます。

司会 色々な意見が出ましたが網野さんどうでしょうか。

網野 私の奉仕する秩父神社においては、この「いのり」の頒布は、現時点ではまだ予定されていないようです。しかし、地鎮祭の時には、神社庁の「お札立て」と神宮大麻と秩父神社のお札をお付けして、新しいお宅でお祀りしてくださいと申し上げて居ます。事前のアンケートの中で、二十代を中心に斬新な神棚でも受け入れられるが、そうでない年齢層では受け入れにくい。新しく家を建てようという若い人達は、おそらく、親の世代の人達が、神棚を祀つて居るといふ状況をあまり目にしない中で育つてこられた。その時に、色々な形の神棚があつて、色々なお祀りの仕方があることを示す。先程、細田ご夫妻がおっしゃつたことを如何に我々が実践していくかが必要

のではと考えます。

ところで、先刻も問題になりました堀場審査副委員長の「神社界が示す新しい神棚として果たして相応しいのか」というお言葉についても少し説明していただけますか。



網野編集委員

原 堀場審査副委員長本人に直接聞いていないので真意は分かりませんが、多分、審査をして大賞作品を決めようとした時に、三十〜四十分という短い時間の中で、約九十作品に目を通して、その中で審査員が投票して審査をした。私は審査員で無かったので、端から見ていると慌ただしく感じました。作品の中身までよく把握をせずに、デザイン画の印象で選ばれていました。そうした短時間で選ばれた作品ですが良いのですかという意見だったんです。我々もスタッフでしたので、時間も限られていましたし、長くかければ良いとも思いません。そうしたことに對して釘を刺された意見だと思つています。

網野 審査の過程で決定する時に時間が少なかったとのご意見ですね。

原 そうですね。堀場審査副委員長としては、この企画は神社界として、本場に初めてのことなので、すごく重要に思つていられた。

神社界が示すもの。それには、非常に重みがあるのだ、という所を意識されて話された言葉であつたと認識しています。

マイナスのイメージでなく、堀場審査副委員長が、神社新報に講評という形で載せている所には、不易性を備える流行の形を合わせて評価したとあるように、変わらぬもの、手を合わせ、神様に感謝をすることとにふさわしいものであるかを評価したと書いています。

網野 このコンテストの発端は、前回の座談会の中での、細田さんの奥様の「神棚コンテストでもやってみては」の一言だったんですが、今後は神社界が判り易く、この「いのり」の作品の存在を示す広報活動をしていくことが必要であると思います。ただどういう神棚を祀るかではなくて、大事なことは、お札を祀ること、それが目的だと思つています。暮らしの拠り所として、お札をお祀りする。この件に関する神社の役目はそれを如何にして氏子の人達に伝えてゆくかということにあるのだと感じています。

司会 任期というものがあつますが、原副部長さんとしては、今後もこの活動を続けたいと思つていますか。

原 やりたいですね。これ程の大きな反響もあつますし、一般の方がどのように思われ

ているかを感じられます。応募内容の統計を取つていくと、どのようなものが欲しいのか、などが見えてくるのではないかと思つています。神棚奉斎についてのプラス面は大きく、広い範囲に告知をすることで、より多くの方に考えていただく機会になります。作品になつて発表する時は良いのですが、でも、実際にやってみると大変というのが正直なところです。

司会 ありがとうございます。先程も神棚を祀る際に申し上げましたように、色々な障害があります。しかし、このことについても、神職それぞれが同じ認識を共有する中で、悩みを持つ人の不安を取り除き、気持ち良く祀ることができるといふ、安心感を与えていきたいと思つました。「未来の神だな」の模索は始まつたばかりですが、多くの方に、より神様が身近に感じていただけるようなものを目指してゆきたいと思つています。長時間皆様ありがとうございます。

(平成二十二年十二月十日)

於 越谷香取神社社務所

教化委員会活動報告

三年間の総括

松岡 俊行

◇はじめに

三カ年の教化委員長の任をまもなく終えようとしておりますが、思えばその大半を小生の突然の身体の変調に伴い、関係各位、特に茂木・高麗両副委員長にご負担をおかけし、大変申し訳なく思っています。恐縮ながら、立场上これまでの三カ年について述べてみたいと思います。

◇活動方針について

当期教化委員会の特徴は、「遷宮奉賛」を活動の中心に据え、五つの部と二つの特別委員会が同じテーマを共有し、それぞれの部会・特別委員会に示した活動方針をもとに、緊密な連携を保ち特性をいかした部会活動を進めてきたことです。全体として十分果たし得たかはそれぞれの評価に委ねますが、委員一人一人がこのテーマに真摯に取り組んでくれたことを誇りに感じています。

◇主な事業は以下の通り

①遷宮奉賛のための事例調査実施と分析、総代との意見交換会の開催及び「遷宮奉賛に関する報告書」の発行

②教化研修会の開催(参宮促進)三カ年

③参宮ガイドブックの作成(予定)

④子供たちに夢と元気を与えるための事業「写真コンテスト」の実施(二カ年)

⑤神話カレンダーの製作、頒布

⑥遷宮、御師に関する調査研究と冊子「遷宮の歴史と御師の姿」武蔵人との関わり」の発行と教養研修会の開催

⑦新たな神棚の形の提案「神棚デザインコンテスト」の実施と入選作品の製品化、頒布

⑧遷宮、神宮大麻頒布告知事業(三カ年)

⑨「参拝の作法」木製パネルの作製、頒布

⑩「鳥居付きおふだ立てプレゼント」の実施

⑪神社庁ホームページの充実

◇今後の課題と期待について

教化委員会の組織は、平成五年より従来の三部編成から五部編成へと移行し、時代に則した活動がなされてまいりましたが、改正から十七年が経過する現在、組織の形態が必ずしも適切とはいえず、本来の機能を十分に発揮するためには、機構再編が不可欠となってきたように思います。このことについて、委員会内より改正の方向性が提起され、役員会を経て、この度、検討委員会が発足いたしました。

教化委員会の更なる発展のため、今後の機

構再編論議に、大いなる期待をよせています。二期に亘りこの重責を務めさせていただきましたが、温かく見守り、これまで支えていただきました各位に、厚く感謝申し上げます。括とさせていただきます。(教化委員長)

教化研修部

東 秀 幸

活動テーマを「伊勢から伊勢へ」とし「自発的参宮気運の向上を模索し、遷宮奉賛の啓発と神宮大麻増頒布を目指し、教化活動に必要な資質を養うことを目標とした教化研修会を開催すると共に、参宮推進のための企画等を立案する」と致しました。

研修部が注目したのは、一年間に人口の八人に一人が自発的に参宮した江戸時代であり、参勤交代の制度により街道や宿場町が整備され、御師の教化活動が一般庶民にまで広く行きわたり、庶民の神宮への崇敬の念の高まりと、伊勢の地への旅の憧れを両翼として集団参拝が起きました。江戸時代を掘り下げて検証し、現代の参宮に活かせるヒントを模索するため、次の研修を実施いたしました。(詳細は、庁報研修報告をご参照下さい)

平成十九年度「神宮式年遷宮ええじゃないか

「おかげ参りに学ぶ伊勢参宮」

分科会テーマ「平成の世における伊勢参宮」

平成二十年度「日本の誇りと御遷宮」

分科会テーマ「つまらないとは言わせない

伊勢参宮」

平成二十一年度「日本人とお伊勢参り 旅の

文化」「祈りの地を巡る旅」

いずれも神宮にまつわる「旅」を中心とし

た内容であります、その中に当初の目的が

達成される要因が含まれていると確信しま

す。(教化研修部長)

教化事業部

福井 千秋

三年間にわたり教化事業部では、遷宮奉賛活動という教化委員会全体の目標を踏まえ、本来の事業部のあり方に戻ろうと活動してきました。

その中で、「子供たちに夢と元気を与えるための事業」として、「私たちの住んでいる近くの神社の写真を撮ろう」というタイトルを掲げて、写真コンテストを企画させていただきました。この事業は、あくまでも写真の善し悪しを問うものではなく、近くの神社に足を運んでもらうためのもので、一緒に写真を撮ってもらったり、お社や遷宮について語っていただけたらと考えました。

第一回目では、応募件数三十四件で七十八点の写真、この内入賞作品として五点を選ば

せて頂きました。

第二回目は、応募件数百十四件で百六十六点の写真をいただきました。そして、その中で四点を入賞作品、特別賞として四点を選出させていただきました。

応募の期間を長く取った二回目は件数が増え、夏の「お宮と親子の集い」などを活用してくれた神社が多くあったようです。

また、継続事業としていたる神話カレンダーについては、平成二十年「国引き」と「因幡の素うさぎ」、平成二十一年「天孫降臨」、平成二十二年「三種の神器」の刊行を致しました。(教化事業部長)

神社実務部

馬場 裕 彦

神社実務部では、今期教化委員会の活動テーマ「神宮式年遷宮奉賛の啓発と神宮大麻頒布向上にむけて」の方針を踏まえつつ、内容を三つに絞り、活動して参りました。

まず、「未来の神だな」デザインコンテストを企画・実施し、その後、入賞作品の製品化に取り組みました。昔はほとんどの家庭で神棚が祀られていたが、最近はモダンな住宅やマンションが増えてきました。そんな家のリビングや部屋に似合う神棚を考えることにより、新たな可能性を探る重要な切り口となると考えました。

従来のお社をかたどった宮型や注連縄を

張って形づくる神棚に神宮大麻・氏神社の神札を祀り神饌を献じて祈りの場とすることはもちろん大切なことです。しかし、昨今の住宅事情から神棚を設けることが困難であるがゆえに、その祈りの場の必要性に気付かなくなっています。祈りの場の必要性を感じた時、その設備が手軽で、部屋のデザインにも合うものであれば、新たな「いのり」の場を設けることが可能となるでしょう。

今回の『未来の神だな』がこうした住宅に住む若い家族に受け入れられれば、神棚奉斎・神宮大麻頒布向上に進むのではないかと考えます。

次に、式年遷宮と神宮大麻告知活動の企画・実施につきましては、各神社でも簡単に啓発活動が出来るように、式年遷宮パンフレットを利用して簡単にポスター化する方法の構築と、映像を利用しての告知方法の提案をしました。目で見せる告知方法により関心を引き付け、スムーズに内容を説明することが可能です。(平成十九年度川越水川神社、二十年度高麗神社、二十一年度越谷香取神社において実施しました。)

更に、天皇陛下御即位二十年の佳節を記念し、社頭での神道教化を目的とした「参拝の作法」の木製案内板を作成しました。(神社実務部長)

「お宮と親子の集い」十年を振り返って

押田 豊

本県においては、青少年教化活動の一環として、「巡回子供会」が長い間実施されてきました。

平成十一年、時の藪田稔庁長の発案により「お宮と親子の集い」を全県下九支部で実施するにあたり、先ず秩父支部が秩父神社において試験的に開催しました。秩父神社での結果を基に、教化委員会教化研修部が中心となり、平成十二年三月に「支部別子供会実施のための意見交換会」を開催し、同年四月に、支部事務担当者会において説明及び協力要請を行いました。同年五月、各支部より選出された「お宮と親子の集い」担当者による連絡会を開催し、趣旨及び進め方を伝達しました。これによって支部ごとに活動を企画立案し実施に向けて準備を開始することになりました。

実施のねらいは、

- 一、次代を担う子供だけでなく親子を対象として行う。
- 一、平成十四年から実施された学校週休二日制を鑑み、これを好機ととらえ、神社を地域づくりの場として提供する。
- 一、各神職は、若い父母や次代を担う子供に対する教化の必要性を理解し、この事業を推進する。
- 一、各神職は研修を重ね、将来的には各神社で行えるようにする。

としました。

平成十二年度は、七支部九会場、平成十三年度九支部十八会場、平成十四年九支部二十会場で開催され、年々増加傾向にありました。この十年間の「お宮と親子の集い」事業展開によって、神職や総代の意識が喚起され、神社と氏子のつながりが以前にも増して県内全域に深まったことは間違いありません。しかし、最近の状況を見ると、支部によってばらつきが目立つようになって来ました。

地区内各神社での実施を啓蒙し、年々開催神社が増えていく支部とは逆に、受け入れ神社が無く、実施が困難になっている支部もあり、また、神社庁の施策に協力して、現状の中でどうにか実施している支部もあります。

昨年、支部長会議で各支部の現状を意見交換しましたが、多くの課題も出ていますので、新年度には担当者会議を開催し、実情を再調査し、検証する必要があると思います。一律二十万円が各支部に助成されている中、前述の状況を鑑み、不活動支部への対応、活性化地区への更なる拡大への援助等など、助成金が有効かつ効果的に活用される形を再構築しなければならぬ時期に今あると思います。又、この他、「お宮と親子の集い」開催以前より、青少年教化事業を継続的に展開している県内神社も多々ありますので、それらの神社の活動へも目を向け、支援できる施策も

講じるべきだと思います。

教化活動の必要性は、どの時代においても求められています。神職のおかれている状況（年齢、兼職他）や意欲の有無だけでなく、地域（子供会や育成会等）とのつながり方がわからないので実施を躊躇したり、神社の社務所や会館等設備の有無が妨げになって実施しない神社もあるようです。

これらの事は、意欲さえあれば全て解決策が見つかることだと思います。どのような状況でも、活動内容を考慮することによって実施することができます。神職一人で集いを実施することはできませんので、先ずは組織の整備等（総代・青年会・婦人会・奉仕会等）が必要になってきます。

このまま氏子組織やその意識が軽薄化することは、地域共同体の崩壊につながり、これは絶対に阻止しなければなりません。防災・防犯・福祉等は地域共同体の意識なくしては成し得ません。

氏子意識を潜在的に啓蒙するには、青少年の時から神社に親しむ機会を継続的に提供することが、最も大切であり、最も効果的な活動であると思います。

我々神社関係者は、青少年が心身共に健全に育ち、将来に夢と希望を持つことができる環境づくり、その大切な役割を担っていることを、強く認識し教化活動を通して行動し続けなければならないと強く感じます。

本年度の開催一覧は次頁下段
(神社庁副庁長)

神道教学の模索 平成十九年～二十一年の歩み

諏訪 秀一

平成十八年十二月二十八日、占領下で制定された教育基本法が改正され、日本の伝統教育への回帰指向が明確になった。幅広い知識と教養を身に付ける、豊かな情操と道徳心を培う、公共の精神を尊ぶ、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養う、宗教に関する一般的な教養の尊重、親の教育責任など。

そこで、本会では、平成十九年二月二十七日、氷川神社の呉竹荘を会場に、アメリカの日本占領政策を研究してこられた、高橋史郎埼玉県教育委員会教育委員長を講師に招き、「教育改革の動向と課題―神社人に期待するもの」を主題にした教育講演会を、神社庁講師会と共催した。

その一ヶ月後、日本宗教連盟主催の「宗教と教育シンポジウム」にパネリストとして参加する機会を得た私は、戦後、神道の置かれてきた状況や、神道を通して宗教に関する一般教養をどう教えたらよいか、大勢の外人の中で考えさせられた。シンポジウムでは、実りある人生を送るために宗教心がなくてはならないことをどう伝えるか、仏教、キリスト教、神道のそれぞれの立場から述べあった。平成十九年八月、千葉県の幕張で行われた全国大会のテーマは「美しい国づくり教育と神道―真の日本人を育てるために神職は具体的にどう行動するか―」であった。

本会では、平成二十年二月二十八日、川越氷川会館で、主催埼玉県神社庁本宗奉賛委員

会、共催を教化委員会・神道青年会・神道婦人会にお願ひし、主管として「敬神崇祖と伊勢式年遷宮奉賛」を主題に基調提案をさせていただき、花園神社宮司片山文彦氏の講演と、「氏子にどう伝えるか」をテーマに各会から二名宛で発表し、分散会後、参加者全員に感想文を書いていただく研修会を実施した。

平成二十年三月から九月まで九回、日本教育再生機構の道徳教育勉強会に参加し、「清き明き心」を道徳教育の中心徳目にするには、もっと共通理解と実践化に努める必要があることを切実に感じた。八月の新潟での全国教

神協大会の主題は「教育再生と私―教育関係神職として何をなすべきか―」であった。本会では、平成二十一年二月二十七日、川越氷川会館で「伝統文化と清き明き心」を主題に、八木秀次日本教育再生機構理事長に講演をお願ひし、教養研修会を行った。

平成二十一年八月、鳥取で開かれた全国教神協大会の主題は「よみがえる日本の心―子ども達の心・親の心」であった。県内でも親のありようを学ぶ親学勉強会がはじまっている。

平成二十二年二月の本会の研修会は、全教神協の大会決議に基づいて関東ブロック研修会に発展させ、今年五月に神社本庁を会場に実施することになった。

埼玉県教神協では、この他にも大事な事業をしているが、今回は省かせていただいた。

(埼玉県教神協会長)

平成二十一年度お宮と親子の集い開催一覧(開催順) ※新規取り組み

Table with 4 columns: Date, Location, Organizer, and Contact Info. Rows include events from April 29 to November 3, such as '熊野大神社' in Asahi, '氷川大神社' in Maebashi, and '八幡大神社' in Maebashi.

皇居勤勞奉仕事業報告

宮本 修



神道青年会は、平成二十一年度の事業として、皇居勤勞奉仕を行いました。今回の企画は、この年

が、天皇陛下が、御即位二十年、両陛下下御成婚五十年の佳節をお迎えになるとい

員会では、「四日間・十五名以上」の条件が厳しかったため、参加者が集まらないのでは

皇居勤勞奉仕は、朝八時に指定場所に集まり午後四時ごろ終わります。作業内容は、掃

宮中三殿、一般参賀などが行われる宮殿、歌会始の儀などが行われる正殿、天皇陛下が、

初日には、普段入ることができない、賢所・皇靈殿・神殿の前や裏など清掃奉仕させていただきます

に皇太子殿下より御会釈を賜りました。二日目の赤坂御用地での清掃作業の際、午後一時半、皇太子殿下より御会釈を賜りましたが、

生憎の雨で清掃奉仕は叶いませんでしたが、午後、天皇皇后両陛下より御会釈を賜り、お近くでお言葉を賜りました。両陛下よりのお言葉は、各団体個別にいただき、一歩前にいる

今回の皇居勤勞奉仕では、両陛下、皇太子殿下よりの御会釈、皇居内の参観、清掃・作業を体験できたことは、掛け替えのない経験

この事業が、御即位二十年、御成婚五十年という佳節に実施することができたと共に、奉仕の最終日が御即位の日であったことに大神の恩頼をいただいたと感じています。この企画に賛同していただいた先輩や仲間、その仲間の中には元宮内庁の職員がいて後押しもしてもらいました。更には助言もたくさんしていただきました。皇居勤勞奉仕が無事に終えられたことに感謝し、ご関係のすべての方々に御礼申し上げます。

(神道青年会事業企画部長)

庁務日誌抄

11・17	庁報編集会議 一都七県神社庁長会	於 神社庁	1・28	神政連臨時本部長会 中山本部長出席	於 神社本庁	水川神社宮司 阿保神社宮司	石山 信昭 茂木 賢	第三号第二号 第三号第二号
11・18	中山、竹本、事務局出席	於 明治記念館	2・8	埼玉県献血推進協議会 宮澤主事出席	於 神社本庁	三峰神社禰宜 水川神社役員	野上 修 磯部 義雄	第三号第二号 第三号第二号
11・19	神社実務部会	於 神社庁	2・9	神社庁正副庁長会・役員会	於 大宮・水川神社	水川神社役員 和泉三社総代	森田清太郎 加藤 勝征	第三号第三号 第三号第三号
11・25	関係団体連絡協議会・神社庁研修所運営会議	於 大宮・水川神社	2・12	教化委員会機構再編検討委員会	於 大宮・水川神社	身上昇級(敬称略)	三峰神社宮司	中山 高嶺 (二月三日付)
11・25	教化事業部会	於 神社庁	2・15	祭儀研究部会・教化研修部会	於 神社庁	特級	秩父神社権宮司 久伊豆神社宮司	浅見 武史 小林 一朗 (二月一日付)
11・26	全国教化会議 茂木(治)出席	於 神社本庁	2・16	特級授与式 中山庁長・武田録事参列	於 神社本庁	二級上	水川神社宮司 水川神社宮司	鈴木 邦房 滝島 和臣 (三月一日付)
12・1	埼玉県教誨師会研修会 前原参事出席	於 栃木県・黒羽	2・18	埼玉県教誨師理事会 前原参事出席	於 川越少年刑務所	二級	水川神社宮司 三峰神社禰宜	逸見 房雄 岩井 弘之 (三月十日付)
12・4	栃木県青年神職むすび会来庁 教化研修部会	於 神社庁	2・22	祭儀研究部会 前原参事出席	於 川越「水川会館」	任	今宮神社宮司 宗像神社宮司	塩谷 治子 阿久澤秀昭 (三月一日付)
12・6	拉致問題を考える埼玉県民の集い 前原参事出席	於 埼玉会館	2・22	教化事業部会 神社実務部会	於 大宮「清水園」	任	白鬚神社宮司	吉田 八朗 (三月一日付)
12・6	神社庁祭祀舞講師研修会 江森(茂)出席	於 伊勢・神宮道場	2・25	神社実務部会 前原・新井(君)出席	於 岩槻・久伊豆神社	任	今宮神社宮司	御嶽神社宮司 (秩父)
12・10	神宮新穀感謝祭 前原参事参列	於 伊勢	3・2	神職後継者等に関する研究会・連絡会 前原・新井(君)出席	於 神社本庁	任	白鬚神社宮司	御嶽神社宮司 (秩父)
12・11	庁報座談会 正副庁長会・役員会	於 越谷・香取神社	3・2	神政連時局対策連絡会議 中村(邦)受講	於 自民党本部・神社本庁	任	齊藤 国弘 松浦 務	八雲神社宮司 (入間)
12・24	靖国訴訟口頭弁論傍聴・報告集会 武田録事出席	於 東京地裁・靖国神社	3・4	神政連時局対策連絡会議 中山庁長・恩田副支部長・前原参事参列	於 伊勢	任	矢部 巳喜彦 山田 信之	愛宕神社禰宜 埼玉県護国神社禰宜 (南埼玉)
平成二十二年	正副庁長会 神社庁新年互礼会	於 神社庁	3・5	一都七県中堅神職研修第十四次(乙)埼玉県当番 六五名受講	於 明治神宮研修所	任	田丸 陽介	今宮神社権禰宜 (秩父)
1・14	埼玉県宗教連盟新年会 中山・前原・宮澤出席	於 大宮「清水園」	3・5	神社庁祭祀舞指導者養成研修会 三名受講	於 伊勢・神宮道場	免	横田 久雄	八雲神社宮司 (入間)
1・18	神社実務部会 神政連選挙対策委員会	於 川口神社	3・9	神政連県本部役員会	於 大宮・水川神社	帰幽	小作 敬穂	鷲宮神社権禰宜 (北葛飾)
1・21	中山本部長出席	於 神社本庁	平成二十一年度神社本庁功績表彰(敬称略)	三峰神社宮司	中山 高嶺 第二条第二号	守屋 憲太郎	御嶽神社宮司 (秩父)	御嶽神社宮司 (秩父)
1・27	神道婦人会新年会 前原参事出席	於 大宮・パレスH						



埼玉の社叢

多氣比売神社

桶川市篠津五十八

当社は、『延喜式』神名帳に所載される足立郡四座のうちの「多氣比売神社」であると考えられている。近世の篠津村は家数十二軒の村であったが、かつて神社近くに縄文から古墳時代の遺跡等があったことから、古代におけるこの地域の拠点であったようである。

篠津の地名や祭神の「豊蘆建姫命とよあそむけのみこと」が示すように、社前を流れる赤堀川は、かつて元荒川流路であった名残から、川沿いに篠や蘆の生える沼池が点在し、当社の西側にもかつては篠津沼と呼ばれた大きな沼があったという。特に、慶長年間、当地のある鴻巣領と小室領一万石を領知するとともに、徳川家康の蔵入地のうち百万石を支配した関東代官頭、伊奈備前守忠次が、当所から一・八キロメートル下流の綾瀬川合流地点に六百メートルもの「備前堤」を築いて綾瀬川に元荒川と赤堀川が流れ込まないように締め切り、赤堀川は元荒川に合流させられた。これにより綾瀬川下流域の村は水害を免れるようになったが、逆に、当地などの備前堤外（上流）は遊水池とされ、赤堀川流域の村は水害を頻繁に受けるようになった。

『新編武蔵風土記稿』の篠津村の項には「姫宮社 当社は『延喜式』内多氣比賣神社にて、祭神は豊蘆建姫命なり、神體は女體にて十二単衣冠の坐像、本社の前に幣殿拜殿側に椎の大木二株あり、往古は一樹なりと云、何の頃にや枯て其朽たる根際二樹合して生ぜり、根の圍み二株合して二丈餘、又一樹は周径一丈六尺餘、何れも古木にて神木とす、金剛寺の持、末社 稻荷社 三峰社」とある。

このスタジイは樹齢六百年ともされ、遠目には一本の木のように刈り込んだようにきれいなドーム状の樹形になっているが、右の『風土記稿』にもあるように元の中心の木が枯れて葉が簞立ちしており、根元周りは六メートルを超え、「多氣比売神社の大シイ」として市の天然記念物に指定されている。境内には、同様なシイが四株あり、これらだけで鎮守の杜が形成されているといつてよい程である。中でも社殿正面のものには、毎年十二月二十五日に氏子総出で神木の注連縄を取り替える「注連飾り」が行われている。

常緑広葉樹のスタジイの木は、平地においての古木は鎮守の杜に限られてしまう。その用途の少なさをゆえ、農業開発において優先的に伐採されてしまうが、開発以前の地域環境を伝える大切な自然遺産である。

